

企画製作 / 桜 映 画 社
協 力 / 国 立 競 技 場
明 石 市 教 育 委 員 会

体力づくりからコミュニティづくりへ!!



社会教育映画

生活の中のスポーツ

16ミリ カラー 28分 ￥ 180,000

■紹介のこたば

文部省体育局長 渋谷 敬三

この映画は、現代生活におけるスポーツの必要性を、具体的に明快に語って、さらにスポーツが現代社会のコミュニティの形成に好ましい重要な役割をすることを、豊富な実例で明らかにしている。

またこの映画から、スポーツ専門の施設の建設、学校の体育施設の開放、利用面での運営方法など、幾多の問題をひきだして、話しあうこともできる。

スポーツを普及振興する上で時宜を得たすぐれた映画として、行政関係者はもとより体育指導委員、スポーツ指導員、社会体育関係者等のご活用を期待したい。またひろく社会教育関係の方々にもご利用頂きたい。

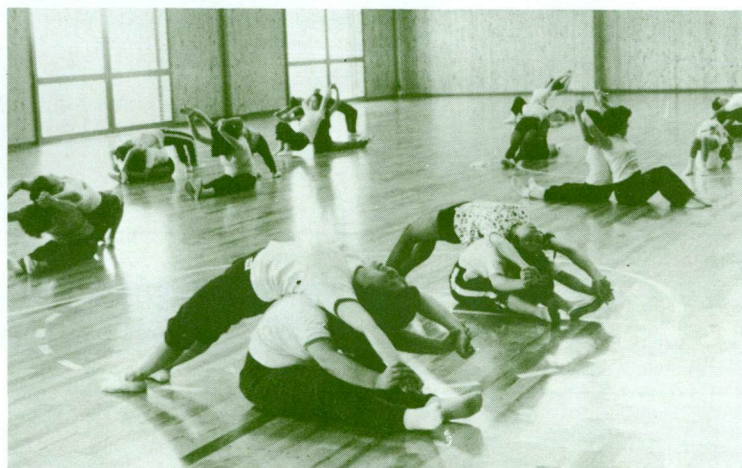
■すいせんのこたば

全国体育指導委員協議会会長 本島 寛

この映画は、とくに地域における生活の中のスポーツを中心に収録されていますので、コミュニティ・スポーツをすすめていく上で示唆の多いよい映画と思います。

日本体育協会事務局長 千葉 久三

この映画は、国民の生活におけるスポーツの展開を具体的にとりあげているので、われわれ体育協会関係者にとっても“国民総スポーツ”を推進する上できわめて得るところの多い映画と思います。



■製作意図

今日、観るスポーツから行うスポーツへと一般の認識があらたまりつつあるのは、現代生活の中で積極的に体力づくりをする必要を人々が実感しはじめたことによる。

さらに最近では、集団でスポーツをすることから生れる連帯感が、孤独に陥りがちな現代社会の人と人々を結びつける、コミュニティスポーツという考え方が生れている。

施設も指導員も、まだまだ少い現状で、より多くの人々が心身共に健康な生活を送るために、日常生活の中でいかにスポーツに親しむ方法を考えていったらよいか、どう進めていったらよいか。それを考え話しあう映画として、専門の方々のご指導を得て完成した作品です。

▶対象

青年、成人、各団体指導者、社会教育指導者

▶用途

体育・レクリエーション（スポーツ）
教育方法（社会体育施設）

▶利用方法

○学級、団体、グループでおこなわれる学習主題「生活の中のスポーツ」「健康の保持と日常スポーツ」「生活におけるスポーツとその施設」などの教材として最適。

○青年、成人の団体リーダー、有志指導者、社会教育関係者の研修会ならびに、「子どもからお年寄りまでの日常スポーツ」「生涯教育における体育施設の役割」などの講演会、講習会資料として有効。

○映画会—社会教育施設、PTA、町内会、老人クラブ（会）等の主催する映画会に利用して、健康と運動スポーツとの関係、大切さを理解させ、やる気を起させるによい。

■製作スタッフ

企 画……………村 山 英 治
製 作……………村 山 和 雄
……………福 間 順 子
脚本・演出……………瀬 藤 祝
撮 影……………原 田 英 昭
照 明……………石 橋 等
解 説……………川久保 潔

■あらすじ

夕方、会社帰りの桜井さんは週に2日は都心のスポーツセンターに寄り道する。

社会生活も個人の生活も便利になったあまり、身体的運動が減った現代、体力は低下し、それにともなって現代病が増えている。こんな時、運動不足やストレスをスポーツでふっとばそうという人たちが多くなっている。

個人タクシーの運転手、長山さんもスポーツセンターで汗を流した後、スポーツサウナで仲間と語りあうひと時を楽しみにしている。

しかし、そういう人はまだ数少く、婦人や子供たち等、だれもが地域で、気軽にスポーツに親しむには、どうすればいいのだろうか。

兵庫県明石市の人たちは、居住区の中学校の体育館にコミュニティセンターを持っている。そこでの主婦たちの健康体操サークル。――痩せたい、友達がほしい……と参加の動機は様々だが、体育指導員の協力を得て町内会が主催したこのサークルは、地域のコミュニティになって、楽しいグループに発展している。

放課後の子供たちのスポーツクラブも、家族づれもここを利用している。昼間は忙しい若者たちのグループは夜集って、毎晩9時頃までにぎわっている。

明石市では、学区ごとに中学校の体育館を改築して、社会教育施設や社会体育施設を含むコミュニティセンターとして地域の人たちに開放した。施設の不足を補う過渡的手段としての学校開放の一形式だが、ここでは、その管理運営を、住民、各種団体、体育専門の指導員などの代表が、夫々の立場の意見を反映して意欲的にやっている。

集ってきた人々の中から、ボランティアとしてコーチを引きうける人達も出て来た。その一人岸江さんは、家庭でもよきスポーツリーダー。休日には夫婦で子供たちをハイキングなど、できるだけ自然の中へつれていく。

生活の中で、身近にスポーツと親しむ事は、私たちの生活を健康で豊かなものとする鍵を与えてくれるだろう。

■話し合い学習の要点

1. 事前の話し合い

青年、成人それぞれに、工夫実践している健康法、スポーツ、体力づくりをひろうしよう。(スライド、8ミリ、写真等提示されればなおよい)

2. 映画についての留意点

- (1) 現代生活によって生じている健康的欠陥は何か。
- (2) この欠陥を克服するためにどんな努力がはらわれているか。
- (3) 社会体育の施設が登場するが、その機能、活動、運営方式などに注意しよう。
- (4) 岸江さん一家の例は何を訴えているか。
- (5) 日常生活にスポーツがいかに重要か。

上のポイントを映画をみる前におさえておく。

3. 内容の探究

- (1) 事前の話し合いをおさえながら、次の点について話し合う。

- ①帰宅の途中国立スポーツ・センターに寄っていく桜井さんの動機は何か。
- ②桜井さん2年後の今日の心境は？
- ③運動不足が健康に及ぼす影響は？
- ④現代病の予防には何がよい？
- (2) 国立スポーツ・センターについて理解をもとう。
 - ①スポーツ・サウナの人々の健康さ、明るさ。
 - ②水泳教室(親子、少女、婦人)――力に応じクラス分け。ジュニア水泳教室の卒業式。子供の時からスポーツの楽しさを身につけるのがよい。
 - ③国立スポーツ・センターは、どんな人が、どんなことを、どんな仕組みでおこなうのか。
- (3) 外国の社会体育施設はどんな具合か。できれば、スライド、8ミリ、写真で解説に具体性をもたせる工夫をしたい。
- (4) 兵庫県明石市明石公園での老人たちの活動はどうか。このキッカケと世話はどうなっているのか。
- (5) 大蔵コミュニティ・センターについて検討しよう。
 - ①施設としての特長は何か。
 - ②どんな活動が、どんなふうに、どんな仕組みで行なわれているか。
 - ③小倉さんと町内会の世話人は必要か。
 - ④山本さんの例から何が考えられるか。家庭生活にまでふれてみよう。
 - ⑤保育所を設置しているなどはなかなか積極的だと思うがどうか。
 - ⑥学校運動クラブ活動が学校の手を離れてセンターの手で行なわれる方式はどうだろうか。
 - ⑦このセンターの施設、指導者、活動、参加者ののはば、運営の仕組全体からみて、今後の社会体育施設として望ましいものと考えerかどうか。その理由は？
- (6) 岸江さんのスポーツ一家の例は何を示唆するか。
- (7) 広域地域でのスポーツはなぜ必要か。

4. まとめ

この映画全体から考えることは何か。

- (1) 現代病克服、健康保持には、日常スポーツに親しむことがよい。
- (2) 山本さんの孤独からのママの変身は、家庭のふんいきを全く変えたこの意義は大きい。
- (3) 国立スポーツ・センターや大蔵コミュニティ・センターのような社会体育施設のはたす役割は大きく、今後社会体育の拠点としてのカナメになる。
- (4) 桜井さん、山本さん、岸江さん共にその気にさせるキッカケが大事だ。
- (5) 体育活動が学校だけで切れてしまって、地域社会における生涯教育としての体育に伸びにくいのを、こうした例を参与にして普及につとめるとよい。
- (6) センターにおける学校運動クラブの件は、課外クラブの社会体育への移行が問題になっている折から、よい示唆を与えるものである。
- (7) ものごとをやるには、認識・意識・組織の手順があるが、参加者の中に誰かVS活動にふみきる人を見つけたい。

株式会社

桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

取扱店